

室堂平で強い酸性の霧がかかるとき、 アジア大陸から大気が来ていることが多い

図4-6は室堂平で採取した秋期の霧水のイオン成分の平均濃度を2004年～2006年までについてグラフにしたもので、図4-7はその2008年、2009年のグラフです。図4-8は室堂平を通過した大気の後方流跡線解析図の2004年から2007年までの分で、図4-9はその2008年、2009年の解析図です。

2005年は硫酸イオンの濃度が高く硝酸イオンの濃度が低めで、後方流跡線解析図ではアジア大陸から頻繁に大気が流れてきたことを示していました(図4-6、図4-8)。この年にはpH3.6程度のかかなり強い酸性霧も観測されました。同様に、2008年、2009年もアジア大陸から大気が流れ込むことが多かったようです(図4-9)。

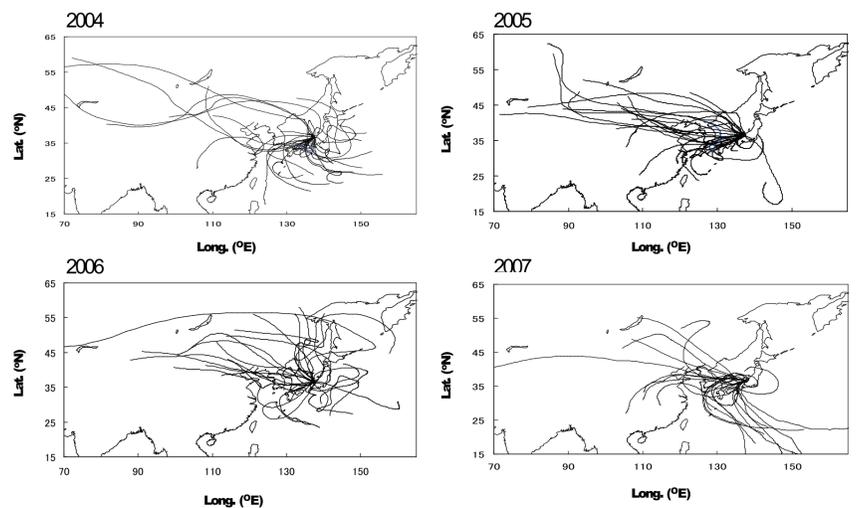
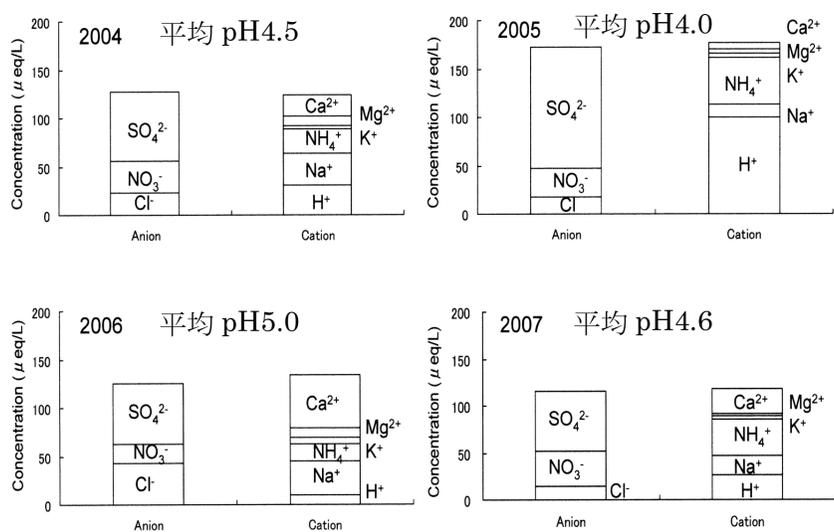


図 4-6 室堂平の霧水の溶存成分濃度の年別比較 1

図 4-8 立山を通過した大気の後方流跡線解析 1
2005年はアジア大陸からの影響大。2006年はアジア大陸からの影響あるが黄砂により中和される。2004年、2007年は国内起源。

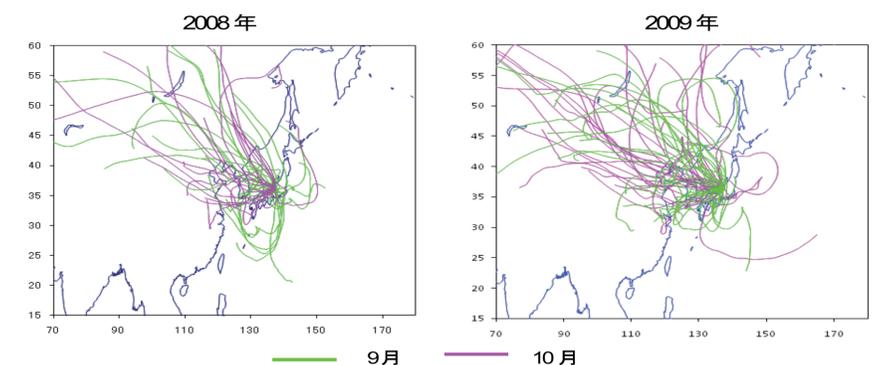
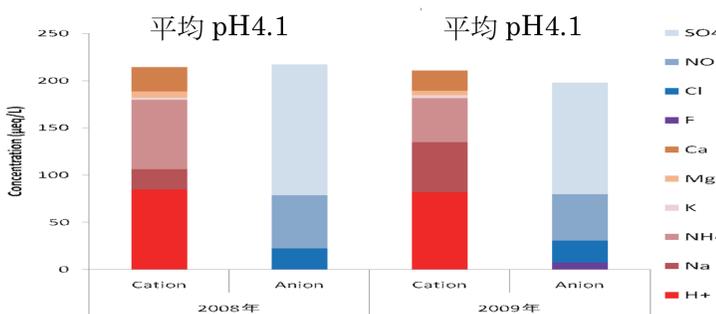


図 4-7 室堂平の霧水の溶存成分濃度の年別比較 2

図 4-9 立山を通過した大気の後方流跡線解析 2
2008年、2009年ともアジア大陸からの影響大

参考文献

Watanabe, K., Honoki, H., Iwai, A., Tomatsu, A., Noritake, K., Miyashita, N., Yamada, K., Yamada, H., Kawamura, H. and Aoki, K., Chemical Characteristics of Fog Water at Mt. Tateyama, Near the Coast of the Japan Sea in Central Japan, *Water, Air & Soil Pollution* (印刷中)

森 駿也、岩竹 要、立山における霧水の水質化学特性、富山県立大学卒業論文(2010)(指導教官 渡辺幸一)